

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200475		
法人名	株式会社 千雅		
事業所名	グループホームはとがやの杜		
所在地	埼玉県川口市桜町5-5-28		
自己評価作成日	令和2年 3 月 16 日	評価結果市町村受理日	令和2年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和2年 4月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員同士で意見を出し合い、利用者の家族とも連携して利用者の方一人一人がその人らしい生活を送れるように努めている。安全面や健康面、他の利用者様との共同生活を考慮した上で、出来る限り個人の尊厳を大切にしている。
月に一度、職員会議にて介護職員が講師となって内部研修を行うことで、全員の知識向上に努めている。課題も講師となる介護職員が決めているため、各々が自身の足りない部分を学べる大事な機会である。そして、別の職員にとっても自身の見直しやスキルアップのチャンスになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、事業所理念でもある「個々の尊厳を守る」と、「自由な生活を支える」を、深く掘り下げた運営を目指すことを目標にしている。身体介護は出来ていることをベースとして、更にメンタルケアを学ぶことでプロフェッショナルな集団を作ることに努めている。リスクを伴う針仕事なども、止めるのではなく本人本位に進めることへの支援を大切として実践している。近くに畑を借りていたが、利用者の加齢変化もあり、興味を持つ方が少なくなり、敷地内の玄関アプローチに花壇を作っている。様々な種類の花の他に風車を置いて楽しめるようにしたことから、保育園児が散歩で立ち寄り、会話と笑顔に出会っている。ケアプランの見直し時には、本人と家族をも含めた担当者会議を行い、短期目標の設定で利用者意識を持ってもらうことを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を各ユニットに掲示し、共有している。 個人の尊厳を大切にし、居心地の良い環境になるよう努めている。	個人の尊厳を守り、自由な生活を支えることを理念とし、朝礼で口に出して唱和し共有している。身体介護だけでなく認知症の方々が安心できる、プロフェッショナルを目指すことを会議等でも徹底している。	介護に誇りを持ち、プロとしてのプライドを持つことで安心のホーム作りを目指したい。その為の教育に注力し、各事例や教材を通し、認知症を理解することで、働き易く楽しい職場を作りたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材やイベント用品の買い出しに、近隣の店舗を利用している。 民謡や琴など、地域のボランティアの方がイベント時をお願いしている。	自治会からは運営推進会議への参加もあり、近くのお店とは仕入等で交流が深まっている。バイオリン・ハーモニカ・日本舞踊等のボランティアや、玄関アプローチの花壇は、至近の保育園児が見に来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外食や散歩時、ボランティアの方が訪問された時などに地域の方々とお話しすることで、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に二ヶ月に一回行い、ご家族や役所、地域包括支援センターの方々と話し合っている。そこで出た意見を日々のサービスに反映し、サービスの向上に努めている。	自治会長、地域包括支援センターからと家族参加で2カ月毎に実施しており、市役所担当者の参加も時々ある。食材搬入業者を変えた時には、皆で試食会を行い意見を貰った。緊急時対応の質問等もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とお頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当の方と密に連絡を取り、申請書手続きの方法や制度の確認などを行っている。	行政報告は市役所窓口での提出としており、連携も出来ている。先の台風被災やコロナウイルスでは、備品在庫等の情報を確認し合っている。市の看取り研修に参加し、講師には後日当事業所でも講義を願った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる、全職員が具体的な行為を理解している。職員会議で身体拘束の研修は年に5回を行い、さらに理解を深めている。出入口のドアは危険防止のため、施錠している。	中核市に移行後は強化され、身体拘束廃止委員会の他、社内研修にも注力している。スキルアップを目指しての社外研修をも積極的に進めている。不適切ケアについては、職員間での話し合いを行い、家族とも対策について相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織体制を作り、異変があれば上司に報告している。また、年2回虐待に関する内部研修を行い、一人一人虐待に関する知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名の利用者様が成年後見人制度を利用している。後見人様とのやりとりや手続きを行う上で、知識を積み重ね、職員にも理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、ご理解、ご納得いただけるように努めている。また利用者様のご家族には名刺をお渡し、不安や疑問点があれば、後日気軽に連絡出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族懇談会、敬老会などでご意見の交換を行い、運営に反映させている。また、2ヶ月に一度「はとがや便り」をご家族に送り、定期的な情報提供を行っている。	年2回行っている家族会では、様々な意見が出ている。美味しい食事を望む声には、敬老の日に合わせ試食会を通して意見を頂いている。居室への冷蔵庫の設置や、乳飲料購入希望の声には早々に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一木曜日に施設長、ホーム長を招き、職員会議を行い、職員の意見を聞いている。重要な内容は本社に確認を取り、運営に反映させている。	毎月の職員会議では、業務改善を含めた意見が出ており、2人介助の提案や不公平とされない介助についての意見もあった。個別面談も随時で取り入れており、フォローすることで離職者も少なくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを細かくとり、職員の希望や職場環境の改善などの整備を努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内をまわり、全職員に対して実際のケアと力量の把握に努めている。また外部研修の際は、シフトの調整など、受講しやすい環境を整えている。時には、職員に適正の研修をホームから行かせることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者と連絡を取り、情報交換している。その際に得た情報や知識を自施設の運営に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学など入居前の時点で、本人が不安な事、要望などをお伺いし、出来る限り不安や不明点を解消している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の言葉に耳をかけている。また、必ず名刺をお渡しすることで、不安やご要望があれば、いつでも後連携いただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でご本人、ご家族から情報収集を行い、計画作成担当者と協議した上で、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、ごみ捨てなど、利用者様ができる範囲でお手伝いいただき、暮らしを共にする者同士の関係構築に勤めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一度ご家族に手紙を送り、イベント時の写真や、職員が利用者様の日常を記録して、ご本人の状況を定期的に家族にお伝えしている。また、ご本人に変化があった場合は、その都度ご家族に対応を相談し、常に解決策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や知人が訪問された際は、居室で気兼ねなくお話ししていただき、これまで通りの交友関係が継続できるように支援している。また、手紙の代理郵送、お電話の取り次ぎなど、ご本人が施設以外の方と自由に連絡が取れるようにしている。	昔の友人や親戚の方が来た時は、お部屋へ椅子とお茶を用意してゆっくり話して貰っている。電話や手紙の投函を頼まれることもあり、家族と外食や前住居へ行く方や、得意の編み物を楽しむ方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで利用者同士が関わりあえるよう、また孤立しないよう、全員に話を振るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、お問い合わせやご訪問時には相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、意向を聞き、計画作成担当者と意見を交換することで、介護計画に反映させている。本人から聞き取りが出来ない場合、日々の生活を観察し、意向を把握できるように努めている。	居室担当者を含めての担当者会議では、利用者にも入って貰い生活の意向を知る様にしている。日々での気付きは介護記録に残し、職員間共有することで活かしており、個々の特性より本人本位としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴をお聞きし、その方らしい生活を営めるように、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態や気づいたことを介護記録に残し、情報共有に努めている。また、周知するべき内容は申し送りノートに記入し、介護職員全員に伝わるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にもとより、ご家族がおいでになった時、お伺いしたご意見を参考にし、担当者会議を行っている。	3カ月毎の見直しを基本とし、身体変化等あれば都度の見直しとしている。家族と本人を含めての担当者会議を進めており、計画作成者がまとめたプランを、カンファレンスで話し合い職員間同意もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを個別にケース記録などに記入し、職員間で情報共有している。また、計画作成担当者は、共有した情報を踏まえ、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議などで意見を交し合うことにより、ご本人やご家族にニーズに合わせて柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近隣のボランティアの方をお呼びし、ハモニカ演奏や日本舞踊など、利用者の方と交流していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、かかりつけ医などは、ご家族対応にて行っている。また、月に2回内科往診、歯科往診があり、適切な医療を受けられるようにしている。	内科、歯科夫々月2回の訪問診療がある。同法人有料老人ホームが併設されており、常勤の看護師が居る。また、事業所でも看護師が勤務しており安心の体制である。夜間も、主治医や看護師との連絡はとれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態の変化などを看護職員に報告、相談、及び2ヶ月に1度血液検査も徹底的におこない、体調不良時には医師と連携を取ってもらい、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院された場合、必ず病院に訪問し、病院から詳しい情報を聞くようにしている。その後も連絡を密にとり、経過をうかがうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化指針を説明、終末期の対応についてご家族と話し合いをしている。また、体調の異変時はご家族に連絡をし、話し合っている。	契約時に終末期の指針説明を行い、医療行為等の限度あることを確認している。入院時に医師の判断を受けて家族と相談することもある。管理者は終活アドバイザー資格を取得しており、家族の意向把握や看取り研修にも注力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルを準備している。応急手当や初期対応は職員会議などで復習し、実践力を高めている。また、利用者一人一人に救急用の記録簿を作成している、救急搬送時に普段の血圧状況など一目瞭然で伝えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、倉庫には災害時に備え、備蓄を用意している。	年2回の訓練では避難・消火・通報の実務を行い、一度は夜間想定訓練も行い、消防署からは水消火器を借りて実践している。備蓄品も備えており、先の台風来襲時は、インフラ懸念より断水対策を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語を基本とした言葉遣いをし、一人一人の人格を尊重した対応をしている。	研修でも取り上げているが、言葉遣いは丁寧語であることを課題とし、職員の意識が大切としている。申し送りは両ユニット合同で、利用者から離れた場所で行い、個人情報管理徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が思いを話しやすいように、本人の話を否定せず、傾聴している。そのうえでご本人が意思決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を尊重し、出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本人の希望を聞き、染髪などを行うこともある。また、日々の洋服はご自身で選んだものを着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いの食べ物や持病のため食べれない物などあれば、代用食を提供することによって、一人一人に合った食事を用意するようにしている。 また、利用者の方に一緒に盛り付けしてもらうなど、より楽しく食事をしていただいている。	好き嫌いを把握し、咀嚼具合に合わせ、好きなものを好きなだけ食べて貰う。メニューへの希望はイベント食やおやつで取り入れており、一緒に調理もする。外食も定期的に取り入れ、料亭ランチは喜ばれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量を記録し、不足時には適切な栄養や水分を確保出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、記録している。また、2週間に一度、歯科往診により指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を確認し、声掛けを行いトイレ誘導している。	トイレでの排泄を基本とし、むやみなお手伝いはしないで、排泄チェック表より声掛けのタイミングを掴んでいる。夜にオムツを使用する人へは、時間誘導しており、昼はトイレでの排泄としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄や水分摂取量などを記録し、水分が少ない方に声かけして補給してもらっている。また、お腹体操を毎日行いヤクルトやヨーグルト摂取により予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを行う際、本人の希望やタイミングに合わせて入浴を行うようにしている。	週2回の午後浴としているが、清潔のためにシャワー浴を加えることもある。自立の人へは見守りだけとしており、お風呂での会話を楽しまれ、入浴剤やユズ湯、菖蒲湯ではゆっくりと温まり、楽しむ人は多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤帯の行動など、一人一人の生活習慣を把握し、眠れない時や落ち着かない時は、話し相手になるなど気持ちが落ち着くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や用量、用法を一人一人が理解している。看護職員に相談しながら、経過の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月時期に合わせたイベントを行い、日々の生活に張り合いが出るように支援している。また、清掃や洗濯物など、利用者様ができる範囲で手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物を行っている。また、皆で夕食や、近くの神社にお参りを行っている。	向かいのオーナー宅の庭を一周するコースが人気で、笹の葉やアジサイが咲いた時には、お誘いの声もかかる。女性利用者は、買物や食べ物屋さんへ行きたいとの声が多い。家族との外出では、夕食や買物が多く洋服を買って帰る方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を一時的にお預かりし、利用者の方の希望により、代理で買い物をするところがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時は、電話の取り次ぎ、手紙をポストに入れるなど、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は整理整頓し、こまめに温度調節を行っている。また、壁やホワイトボードに季節の飾りつけを行い、季節感をだしている。	玄関アプローチ両側の花壇では、様々な花が迎えてくれ、園児も花を楽しみに来てくれる。廊下幅が広く、雨の日の風船投げ会場となる。折紙で作った桜花木は共同作品で季節感あふれ、千羽鶴は入院した病院へ贈りたい気持ちから作製された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーにソファを設置し、自由に過ごせるようにしている。気の合った利用者様同士で、会話を楽しまれている。利用者の趣味に合った雑誌や本、新聞などをリビングルームにおいて、利用者が自由に読めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などお持ち込みいただくことで、居心地よく過ごせるようにしている。	電動ベッドや温水付洗面台などが常設されている。居室からは隣家の庭が見え花や木々を楽しめ、家族写真や好きな人形等を置いている方もある。片づけは、むやみに行うのではなく個人の空間を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ロビーやトイレ、廊下には手摺があり、安全に自立した生活が送れるようにしている。		